



日高地区 新規就農者紹介

2025年10月取材

合同会社 柏原農園

CEO (最高経営責任者)

柏原 恵理子 さん、柏原 純次 さん

CFO (最高財務責任者)

(新ひだか町)

就農年: 2024年4月

経営形態: 花き栽培

出荷本数: デルフィニウムやダリアなどを約10万本

経営面積: 24.5a (ビニールハウス7棟)

【稼げる農業がやりたかった】

恵理子さんは埼玉県出身で、住宅や金融関連企業にて営業職として勤務していました。純次さんも埼玉県出身で、幼い頃から学校や教師に苦手意識を持っていましたが、

「自分が教育現場に入れば変えられるかもしれない」という思いから、中学・高校の国語教員免許を取得。教頭職や教師を指導する立場も経験しましたが、理想の教育を目指す一方で、限界があると感じるようになっていました。

そんな二人は東京都や大阪府、広島県などの大都市で暮らしていましたが、以前から「農業をやりたい」という思いがあり、体力的に余裕があるうちに始めたいと考えるようになりました。そこで退職前の5年間、夫婦で47都道府県を巡り、就農先を探しました。各地の支援制度や地域の雰囲気、営農内容などを比較検討した結果、美しい山並みがあり、馬がいて、雪が少なく、稼げる農業ができる、新ひだか町三石で花き栽培による就農を決意しました。

【支援の輪に囲まれています】

新ひだか町は、対応の速さと柔軟なサポート体制において群を抜いて魅力的でした。痒いところに手が届く、きめ細やかな支援体制が整っており、安心して就農できる環境であると感じていましたが、実際に就農してから1年が経過し、その印象は確信へと変わりました。



自然災害時の迅速対応 (大洪水後すぐに、復旧支援や排水ダクト設置、川への排水契約を結んでくれた)



悩み事 (農業実験センター職員、花き振興会が助言をくれる)



知恵の共有 (先輩農業者が惜しみなく現場の知識を教えてくれる)



地域の人々や先輩の優しさ (毎週誰かが訪問してくれる)



先見性と行動力のある行政 (今後を見通すことができる安心感)

新ひだか町や地域の先輩農業者からの、惜しみのない援助に、深い感謝を抱いています。



ハウスの中で美しく咲くデルフィニウム

【活用した補助事業】

- ・(北海道) 地域づくり総合交付金
- ・(新ひだか町) 花卉野菜生産体制強化対策事業
- ・(国) 新規就農者育成総合対策のうち、経営発展支援事業

補助事業を活用して、ビニールハウスやトラクター、耕運機、草刈り機、管理機、防除機、掘取機等を導入しました。昔から物作りが好きだったので、近隣の先輩農業者に手伝ってもらいつながら、自分たちでビニールハウスを施工しました。鉄パイプの運搬で筋肉痛になつたり、電気工具の使用も初めてで、とても苦労しました。



補助事業で導入したトラクター



猫たちは仕事で疲れた柏原さん夫婦を癒してくれます

今は猫たちのお世話があるため夫婦で旅行は難しいですが、それがなければ農業をしていても旅行は楽しめます。

【優しさをいただいたことで】

デルフィニウムに関する書籍は全て読み込みましたが、そこには載っていない三石の風土に根ざした知見を、先輩方は惜しみなく教えてくれました。そうした学びが実を結び、昨年は北海道花き品評会から金賞を、みついし花き振興会切花品評会から市場賞を受賞することができました。

【美しい花をお届けするために】

ビニールハウス内の温度管理は重要で、通常の5~6倍の頻度でこまめに換気を行っています。また、灌水は一人前になるまで10年かかると言われており、現在も花や土の状態を見ながら試行錯誤を続けています。直売店や契約企業への花束納品もあるため、冬季も栽培を行い通年出荷をしています。

出荷した花に関して、今年は5件のクレームがありました。高温障害によるものや、病害虫の見落としていた。それでも、出荷先を選択できる利点を生かし、夏場は道内の市場をメインにし、リスクを減らすようにしています。今後も花の品質保持には細心の注意を払い、美しい花をお届けできるように進めていきます。



ハウス内の温度はセンサーで、こまめに管理



美しく咲くダリア

【今後の展望】

諸先輩方に頼りきりの現状から脱し、地域を牽引できる存在になれるよう、また、「柏原に任せれば最高だね」と言われるようになりたいです。更に、種苗法などの制約もあり難しいですが、育種にもチャレンジし、好きな色の花に自分の名前を付けたいと考えています。

【農業者になりたい方々に伝えたいこと】

就農に迷っているなら、まずは挑戦してみることをお勧めします。新ひだか町は、食事は美味しい、家賃は安く、人間関係も良好で、スギ花粉も飛んでいません。そして、しっかり取り組めば収入面も魅力があり、1年目から日本の平均世帯年収を超えることも可能です。

ただし、週休二日制を求める方には向いていません。